

恵みと真理のニュース



2014年10月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

【証】 きれいな娘をくださり息子に死なれた悲しみを克服をさせてくださり 権能の手をだして弱い私を強くしてくださる神様を賛美します。



私は小学生の時ミッションスクールを通いながら創造主の神様と救い救い主である神様に対して少知ようになり、夏の聖書キャンプにも何回行って見ました。熱心に教会には通わなかったですがたまに教会に行くと賛美する事がとても楽しくて教会で与える小さいプレゼントをもらうことも私には大きい楽しみでした。神様は私が何でも祈ると何でも答えてくださる良い神様だと認識されました。

高校生になり真実な友達に伝道されこれから熱心に教会を通うと思いましたが母が強く反対して教会に通うことができませんでした。その後から神様を忘れてきました。むしろ教会に通うにも行実が気に入らない人を見ると建前と本音が全然違うと思ひ皮肉りました。普通に学校生活を終えて、就職して結婚まで大きい苦しみもなく暮らしました。

結婚しても首区域長に伝道され初めて熱心に教会を通いました。しかし、相変わらず高慢高ぶってなかなか信仰が成長しませんでした。自分なりに誠実に生きていて他の人に被害を与えなく生きていくからこのくらいでも良いのではないかと思います。

ある日、私にもどうも信じられないことが起こりました。長男が交通事故でいきなり命を亡くしました。その日を一生忘れられないです。死んで行く息子を見ながら何もできなかつた足をばたつかせながら神様に息子が生きるように祈りました。私の命と変えても息子だけは生きるように切に祈りました。しかし、息子は息を引き取りました。私はこの信じられない現実でもう生きてくれないでした。自分を恨んで、私が何の罪を犯してこんな苦しみをくださるか神様も恨みました。しかも、神様しか叫べるところはなかったです。朝起きる事も、ご飯を食べる事も何もやりたくなくてただ

死んだ息子だけ懐かしみながら涙を流す生活をしました。怒りと悲しみと複雑な心になりました。この世の誰の言葉では慰めにならなかったです。しかし、私に残っている家族がいました。その家族のためにも生きなければならなかったです。何とか気を取り直してしなければいけなかったです。以前よりもっと教会に行き礼拝を捧げながら祈りました。悲しみと苦しみを忘れるように神様に切に祈りました。恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。(イザヤ 41:10) という御言葉を信じ私を助けてください、もうこれ以上畏れないように祈りました。

そのような私を哀れんでくださり御言葉と聖霊で慰めを与えてその場で起き上がるように力を与えてくださいました。悲しむ記憶がだんだんかすかになりよい思い出だけ残るようにしてくださいました。私に愛が深くて多い方達を出会うように導いてくださりその方達を通して私を慰め励んでくださいました。私は毎日涙で祈り主と共に生き悔い改めました。神様を信じますと言いますが心が貧しくなくて自我が強くて神様の前で高ぶった私を悟るようになりました。主に全ての事が赦され主だけに委ねるとはるかに心が軽くなりました。これからはこの世に執着しなくて天国だけを希望しました。神様を信頼し愛すると天国で息子に出会うためにも今日も主を捧げる事だけ全力する事を決心しました。そして、翌年に神様の恵みできれいな娘を産みました。私と家族は喜びと笑顔を取り戻しました。“ハレルヤ！ 神様、感謝します。”神様に対する信仰と希望がもっと深くなり神様の臨在の中で生きるようになりました。どころが娘が育ちながら体が弱くて病院に行き何回も入院して小さい手術も受けました。

ある日、首区域長が教会学校で教師で奉仕するのはどうかと勧めました。神様を仕える機会与え神様に感謝を捧げ幼年部で教師として奉仕しを始めました。初めは恐れと不慣れでしたが、弱い私のため先生達が祈ってください大きい力になりました。他の人は見るには教会に熱心に通いましたが私の信仰はまた弱くなりました。パニック障害という病気になりました。私は恐れで心が沈みました。医師は息子を失ってその衝撃で“心的外傷後ストレス障害”で体と心が弱くなる病気を得たと言われました。家の事もできなくてよくリンゲル注射を打ってもらわなければならぬくらい心が弱くなりました。そんな私のため教役者と区域長が共に祈ってくださいました。神様は権能の手を出して治してくださいました。まだ病気から完治されなかったですが状態がよくなることを感じます。生活する時に不便がないくらいよくなり、なによりも私の信仰が大きく回復しました。教師奉仕を始めた以後、娘は健康になりました。二番目の息子も熱心に祈りながら大学入試を準備しています。私の大切な子供達に尊い信仰をくださり、弱い私の代わりに恵みと愛で見守ってください神様に真に感謝を捧げます。

神様は苦難を通して忍耐を忍耐を通して 練達で神様の所に近くしてくださいました。神様だけが苦難の時に助けと力となり慰めと真の希望がなることを悟るようになってくださいました。神様に感謝と賛美を捧げました。これからは私が生きる時に苦難と逆境があると思いましたがそのたびに神様は相変わらず私と共にしてくださいることを考えると心が強くなります。聖徒として全心に神様を畏れ愛し、天で私を見ている息子にも恥ずかしくないように教会学校の子供達を私の息子の娘のように見守りながら主のため献身する人生を生きます。

【信仰コラム】

予言を蔑視するな



予言を軽んじてはならない。(テサロニケの信徒への手紙一 5:20)

“予言を蔑視するな”はお話は聖書に記録された神様の言葉を蔑視しないという意味です。そして聖書に記録された言葉を解いて伝えて教える言葉を蔑視しないという意味です。予言を蔑視する行為を具体的に見てみます。

第一に、聖書の教えを信じないのは予言を蔑視する行為と見なされます。人が聖書の教えを信じられない理由は神様の言葉を、自身の経験と知識で判断するためです。しかし、人間の経験と知識が豊富になるほど聖書に記録されたことについての誤解が解けて理解が深くなります。聖書に記録された予言の言葉を神話や迷信のように思って古い教訓として信頼しないのは予言を蔑視する態度です。人が神様の言葉を不信するようになる他の理由はサタンが与える疑いを受け入れるためです。そして世俗的な欲のためです。無知と知的傲慢と疑心や世俗的な欲望は神の予言を不信するようになり予言を蔑視する要因です。

第二に、神様がくれる救援を軽く思う行為は、予言を蔑視する行為です。神様のほかにも救援があるという思想を広めた団体を弁護して補助する人は彼がイエ

ス・キリストだけが救世主だと声高に話しても、その言葉は、真実性がなく、このような二重的行動は予言を蔑視する行為です。人間の言語では一人っ子をくださった神様の愛を十分に示す方法がありません。救援の内容を見ると、ものすごいものがあります。罪下賜されます。義人になります。偉大になります。神様の子供になります。鬼の支配から自由になります。将来くる世を治めることになります。このような救援の福音を無視して拒絶するものは神を軽蔑することと大差ないです。

第三に、福音を歪曲する行為は、予言を蔑視する行為です。正常な教会に通っていたが、ある日突然、二段集団として、自称神様あるいはキリストあるいは聖霊という人が率いる集団に突き進んでしまう人を見ると不思議に思えます。自分たちの集団に入って14,000名の数字に就くことになってそうしてこそ、救われるという頓狂な声に魅惑されている人、人々を誘引するため、嘘の行動をするようにさせているが、そのまま追従する人たちを見ると不思議に思えます。似非異端の教えに従って、似非異端に属して行ったり、似非異端を擁護し、支援する仕事をするのは予言を蔑視する行為です。

第四に、聖書には合致しない予言をしたり、神秘体験を宣伝することは予言を蔑視する行為です。昏睡状態や夢現のうちに天国と地獄を見たしながら聖書に記録された言葉に当たらない内容を語る人々がいます。

これは予言を蔑視する行為です。神様は死後の世界について私たちが分からなければならないだけでは聖書に啓示してくださいました。似非牧師、似非信者たちは自ら神霊振りをしてイエスの名をかさに着て、聖書の句節を巧みに引用して、考えように予言をして私利私欲を満たします。こんな行為は、予言を蔑視する行為です。

第五に、神様の意思に順応しないのは予言を蔑視する態度です。神様がモーセに“イスラエルの民に行って彼らをエジプトで導き出してカナーンへ引き渡すと”と指示しました。これにモーセが答えるのを“私が何者ゆえにパロへ行き、イスラエルの子孫をエジプトで導いて出しますか?”しました。神様がモーセの杖とモーセの手に移籍を示しました。それでもモーセは重ねて仕様をし、その後、神様を憤慨呼び立てしました。このような行動は、神様の言葉を蔑視する態度です。怒っている神様の音声を聞いてはっと気がついたモーセはその後は理解できなくても神様の指示をそのまま受けました。皆さんは、予言を蔑視しないで、予言を本当に尊重しては姿勢で生きてことを望みます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

捨てられた人々



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人は神様の被造物です。被造物は創造主の面倒がなくては存立することができません。神様に捨てられるのが人に最大の悲劇です。人が恐れること中に神様に捨てられるより加えたことはないです。だから人生に最上の知識と知恵は神様に捨てられないで神様の面倒を受けながら生きて行くのです。その知識と知恵はほかのところから得ることができないし聖書から得ることができます。聖書には神様に捨てられた人々に関する記録を通じて神様に捨てられる理由と同時に神様の保護の下に住む道を知らせてくれています。

第一は、人類の先祖が神様に捨てられた事件をよく見ます。

神様が東のエデンに園を建てました。その園には神様が見るのに美しく食べるのに良い実を結ぶ木が生えるようにしました。その園の中には生命の木と善悪を知る木もありました。神様がアダムを連れて来てエデン園に残して、それを管理するようにしました。神様がアダムに言い付けるのを「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。」しました。神様がアダムを深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。アダムが女の名前を「エバ」と呼びました。ところでエバが狡猾したへびサタンの誘惑に陥って実を取って食べてから自分と一緒にした夫にも与えたら彼も食べました。アダムとエバは神様の命令を逆った犯罪者になりました。それによってアダムとエバはエデンで追い出されたし神様が宣告したとおりに人間は死を避けることができなくなりました。神様に捨てられた存在になりました。

しかし罪人をあわれに思った神様が救世主を送って罪人を救援することをアダムに啓示なさいました。昔の時代には将来いらっしゃる救世主を信じて神様を礼拝することで救いを得ました。時になって神様が約束した救世主を世の中に送りました。神様のイエスキリストが童貞女の身に聖霊に孕胎されて世の中へいらっしゃいました。キリストが罪人のために十字架に釘付けられて死なれました。そして復活昇天なさいました。これからは誰でもイエスキリストを信じれば救いを得ます。捨てられた者が神様の迎接を受ける恩寵を着るようになります。それなのに多くの人々が無神論的な人本主義者で生きて行きます。自分が願う対象を神さまと違って仕える偶像崇拝者で生きて行きます。このような人々に対してローマ人への手紙、1章28節に記録されるのを「そして、彼らは神を認めることを正しいとしなかったの、神は彼らを正しからぬ思いにわたし、なすべからざる事をなすに任せられた。」と言いました。神様がそういう人々を捨てられた状態そのまま置いたという意味です。

二番目は、ガナアン地を探った偵探軍たちが捨てられた事件をよく見ます。

エジプトの奴隷生活から脱したイスラエル子孫たちがモセの引導の下に神様が彼らの先祖に約束したガナアン地を向けて行進しました。エジプトを去ってから2年半ぶりに彼らはガナアン接境であるバラン荒野「カデスバネア」に到着しました。モセはイスラエルの各支派の中で頭領になった者一人ずつ選抜して10人で偵探軍を構成して40日間パレスチナ地域を南側から北まで徹するように探るようにはしました。彼らが帰って来て待ちわびる民たちに探り報告をしました。ガナアン地が果して乳と蜂蜜が流れる地という事実を確認して感じたことは10人が皆等しかったです。しかしガナアン地占領に対しては見解が違いました。ヨシュアとガルレブを除いた10人の偵探軍は言うのを「その地に住む民は強く、その町々は堅固で非常に大きく、わたしたちはそこにアナクの子孫がいるのを見ました。」と告げて結論するのを「彼とともにのぼって行った人々は言った、「わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできません。彼らはわたしたちよりも強いからです。」としました。するとヨシュアとガルレブが民を安頓させながら言うのを「私たちがすぐ上がってその地を取ると十分に勝とう。」としました。

民たちは10人の偵探軍の報告を聞いて神様とモセを恨みながら一夜の中泣きわめきました。とうとうモセを捨てて他のリーダーを立ててエジプトに帰ろうと叫びました。神様がモセに言うのを「この民はいつまでわたしを侮めるのか。わたしがもろもろのしるしを彼らのうちに行ったのに、彼らはいつまでわたしを信じないのか。」(民14:11)「わたしの栄光と、わたしがエジプトと荒野で行ったしるしを見ながら、このように十度もわたしを試みて、わたしの声に聞きしたがわなかった人々はひとりも、わたしがかつて彼らの先祖たちに与えると誓った地を見ないであろう。またわたしを侮った人々も、それを見ないであろう。」(民14:22,23)しました。彼らの行為は「乳と蜂蜜が流れるガナアン地をあなたがたに与える。」となさった神様の言葉を見下したのです。神様を見下した彼らは神様に捨てられました。十人偵探軍の報告を聞いて神様とモセを恨んだ民たちはその日から38年の間荒野で迷っている途中に皆死ぬようになりました。また神様が十人の偵探軍に直ちに災いを下げてたまらないようにしました。神様の言葉を無視して否定的なものを言って神様を向けて恨み不平を言うことは神様の言葉を見下すことでさらには神様を見下す行動です。こんな行動は神様に捨てられるようになる原因になります。

三番目は、イスラエル国の初代サウル王が神様に捨てられた事件をよく見ます。

ある日予言者サムエルがサウル王に来て神様の言葉を伝達しました。「今、行ってアマレクを撃ち、そのすべての持ち物を滅ぼしつくせ。彼らをゆるすな。男も女も、幼な子も乳飲み子も、牛も羊も、らくだも、ろばも皆、殺せ。」(サムエル記上15:3)。その理由はイスラエル民がエジプトで解放されてガナアンを向けて進む時アマレク人々が攻撃したからです。アマレクの攻撃は神様が自分の民を救援する事を妨げる行為だったから神様が憶えて報応なされるのです。サウルは軍事を募集して軍隊を導いて行ってアマレク人々と争いました。

アマレク人々を所滅する中にアマレク人の王を捕らえたが殺さなかったです。そして羊と牛の一番良いことと油っこいことと幼い羊とすべての良いことを残して所滅するのを楽しんでなくて価値なくて低いことは所滅しました。神様の言葉がサムエル予言者に臨みました。「サムエルは言った、「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。そむくことは占いの罪に等しく、強情は偶像礼拝の罪に等しいからである。あなたが主のことばを捨てたので、主もまたあなたを捨てて、王の位から退けられた。」(サムエル記上、15:22,23)。サウル王は講じようと思ったがサムエルは「サムエルはサウルに言った、「あなたと一緒に帰りません。あなたが主の言葉を捨てたので、主もあなたを捨てて、イスラエルの王位から退けられたからです。」(サムエル記上、15:26)と重ねて宣言しました。サウル王は神様が決めて命じたそのまま神様を仕えないで自分の方式どおり仕えようと思ったから神様に捨てられました。

四番目は、イエスキリストが再臨なさる時捨てておくことをあう人に関してよく見ます。

イエス様の再臨は7年大患乱前後にかけているでしょう。先には聖徒たちが携去する事件があるでしょう。マタイによる福音書24章に記録されるのを「そのとき、ふたりの者が畑にいと、ひとり取り去られ、ひとり取り残されるであろう。ふたりの女がうすをひいていと、ひとり取り去られ、ひとり残されるであろう。」(マタイによる福音書、24:40,41)しました。ここで連れて行くことをあてて捨てておくことをあう人と言うのは信者と不信者を示すことだけではなく真実の信者と名前だけである信者を区分するのです。キリストちゃんに行世するが聖書どおり信じない人々がいます。彼らは天国と地獄の存在に対して関心がないです。イエス様の再臨にも関心がないです。しかし教会の各種行事や奉事活動には参詣します。こんな教人たちはイエス様の再臨時に携去を受けることができずに捨てておくことをあいます。そして7年大患乱をパスするようになるでしょう。

人生において一番悲しくて恐ろしい事は神様に捨てられるのです。イエスキリストを信じない人は捨てられた状態にあります。神様の口約束を不信して神様を向けて恨んで不平を言う人は捨てられます。神様が決めて命じたとおりに神様を仕えないで自分の方式どおり仕える人は捨てられます。あがない信仰がなくてただ趣味や教養であるいは宗教人で暮すために教会に通う人は捨てられます。神様に捨てられた人生が神様の迎接を受ける道はイエスキリストを信じる道だけです。皆さんは神様の口約束を尊いしなさい。そして聖書のどおり信じて、イエスキリストを相変わらず愛しながら生きて行くように願います。